

湯川富三郎	油田尚一	由利龜一	岸本福松	岸本武多郎	岸本五郎	九州勸業株式會社	菊本直次郎	菊島生英	菊池英夫	菊池厚	菊池一雄	北山秀夫	北野隆春	北村秀太郎	北村吉三郎	北村喜一郎	北村三郎	北村三郎	北村榮次郎				
五〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇				
御子柴伊佐雄	見野宗一郎	見高謹之助	三島勇夫	三品晴俊	三宅千太郎	三宅郷太	三宅正基	三宅勝環	三宅敏子	三宅德三郎	三浦修治	三浦芳造	三浦良雄	三谷榮亮	三代川千代	三輪幸三	三井隆生株式會社	湯本源一郎	湯本芳三郎				
二〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇				
南峰章治	水本清七	水野慶之助	水野佐久二	水野利八	水野富次郎	水野政彦	水野清作	水野清太郎	水野英世	水野正夫	水野猪三郎	水野文雄	水野長治郎	水野傳三	光藤與三	光村保二	溝口四郎	溝口庄太郎	溝口忠次郎	溝口元太郎	明樂佐一郎	御酒德松	御子柴博見
二〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇
宮森作市	宮本達夫	宮本一彦	宮本二彦	宮本範二	宮本治直	宮本正一	宮本千秋	宮本誠一	宮本彌之助	宮本忠雄	宮本壽男	宮本義一	宮本直己	宮本二太郎	宮本万次郎	宮本助清	宮本康男	宮本武治	宮本政吉	宮本宗吉	箕浦維成	箕浦忠太郎	南方

第一四一號

保存期限 三年
 決裁指定
 局長
 決行指定

大臣 陸		局長 主務局長		政務次官 次官		參與官		書記官		審案 筆記者	
高級副官		主務副官 官房御用掛		主務課員		主務課長		主務課長		主務課長	
連帶		局長		局長		局長		局長		局長	
決行(決裁)後 同覽課名		起元廳(課)名		大日本清風會		第一回全國壯丁武道大會後援ニ関スル件		壹漢四一六一號		陸軍省 15.9.11 防衛課	
防本		補任		情報		情報		情報		情報	
長課		長課		長課		長課		長課		長課	
昭和三十五年十月一日		昭和三十五年十月一日		昭和三十五年十月一日		昭和三十五年十月一日		昭和三十五年十月一日		昭和三十五年十月一日	
昭和三十五年十月五日		昭和三十五年十月五日		昭和三十五年十月五日		昭和三十五年十月五日		昭和三十五年十月五日		昭和三十五年十月五日	

拾年保

入完丙花者一

二

陸普 副官ヨリ大日本清風會々長宛回答案

八月二十一日附ヲ以テ申請ノ首題ノ件認可セラレ
尚尤記者ニ對スル顧問依囑ノ件差支ナキニ付承
知相成度依命回答ス

陸軍省軍務局長 武藤 章
陸軍省兵務局長 石本寅三

陸普第七〇四二號 昭和五年十月三日

陸普 陸軍省後援名義使用方ノ件
副官ヨリ憲兵司令官 總務部長 東京憲兵隊長

(憲司經由)宛通牒案

來ル十一月五日、六日、兩日陸軍戸山學校ニ於テ開
催ノ大日本清風會主催第一回全國壯丁武道大
會ニ對シ陸軍省後援名義使用方許可セラレタルニ

付承知相成度依命通牒又

陸普第七〇四二號

昭和五年十月三日

堀

陸軍



昭和十五年八月二十九日

吳



陸軍大臣 東條英機 殿

大日本清風會

小笠



生 小笠原



第一回全國壯丁武道大會後援願ニ關スル件

今般別紙要綱ニ依リ標記大會ヲ開催致度候條貴省ノ後援名義使用方
御承認相成度此段及申請候

第一回全國壯丁武道大會要綱草案

- 一 本大會ノ目的ハ從來ノ各種武道仕合ノ内容ト方法トニ對シ眞武的檢討ヲ加ヘ、復古發展の革正ヲ斷行シ特ニ相撲ニ關シテハ職業相撲的風習ヲ一掃シ、既成相撲ノ劃期的一大刷新ヲ圖リ、其ノ嚴肅ナル武道トシテノ眞姿ニ復活セシメ以テ全國壯丁ヲシテ心身俱ニ悉ク甲種合格者タラシメンコトヲ期スルニ在リ、故ニ將來常時各種ノ方法ニ依リ武道中心壯丁教育ニ專念スベキハ言フ俟タズ
- 二 本大會ハ每年秋季之ヲ開催ス
- 三 本大會ニハ左記ノ四部ヲ設ク

一 柔道部

二 劍道部

三 銃劍術部

四 相撲部

但シ將來必要ニ應ジ其ノ他ノ種目ヲ追加スルコトアルベシ

- 四 審判制度ハ各部トモ單數制ヲ原則トシ各審判員ハ其ノ全責任ニ於テ審判ヲ行フモノトス

- 五 審判方式ハ各部トモ軍隊式ニ準據ス

- 六 本大會ニハ審判員ノ外ニ審査員ヲ設ケ大會精神ニ則リ、勝敗ノミニ囚ハレズ敗者ト雖モ、其ノ仕合其ノ他ニ於ケル態度、精神、技術ニ於テ優秀ナル者ニ對シテハ個人又ハ團體優秀賞ヲ以テ特ニ表彰ス

- 七 大會出場選士ノ資格ハ入營前ノ壯丁(學生生徒ヲ含ム)ニシテ本會所定ノ體力檢定條件ニ適合スル者タルコトヲ要ス

十五才以上適齡未滿ノ者ニ付テハ準壯丁トシテ前項ノ規定ヲ準用ス

八 地方豫選

- 一 各市町村ノ豫選ニハ必ス當該市町村在住ノ全壯丁及ビ準壯丁ヲ出場セシメ本會所定ノ體力檢定ヲ行ヒ其ノ合格者ノ中ヨリ所定ノ仕合規定ニ依リ各部トモ夫々代表五名ヲ決定スルモノトス

- 二 各郡ノ豫選ハ郡ノ中央部ニ於テ各部トモ郡代表五名ヲ決定スルモノトス

- 三 道、府、縣ノ豫選ハ各郡市(六大都市ヲ除ク)代表ヲ以テ當該地方ノ中央部(道、府、縣廳所在地)ニ於テ行ヒ、各部ノ優勝組ヨリ夫々三名ヲ選ビ之ヲ中央大會出場ノ當該道、府、縣代表選士トス

- 四 六大都市(東京・横濱・名古屋・京都・大阪・神戸)ノ豫選ハ同地方ノ市町村ト對比シテ適當ニ區分シテ行ヒ各部トモ優勝組ハ道、府、縣代表ト同一資格ニ於テ中央大會ニ出場スルモノトス

- 五 各地方豫選ノ指揮者ハ聯隊區司令官若クハ地方長官ニ於テ之ヲ決定スルモノトス

- 六 審判法ハ中央大會ノ審判規定ニ準據スルコトヲ要ス

- 七 選士決定ニ當リテハ特ニ其ノ品性素行ニ重點ヲ置キ力量ノミニ偏スルコトナキヲ要ス

- 九 仕合方式ハ地方豫選及ビ中央大會ヲ通ジテ勝殘對々採點法ニ依ル

- 十 選士ノ補欠ハ之ヲ認メズ且ツ各部トモ他ノ選士ヲ兼スルコトヲ得ズ

- 十一 中央大會ハ東京市ニ於テ開催スルヲ原則トス

道、府、縣代表ハ各部トモ三名ヲ以テ一組トシ抽籤ニ依リ組合セテ作成スルモノ

大 任令方式ノ地方選考ニ中央大會ヲ通シテ膠着對々採點法ニ依ル

十 選士ノ補欠ハ之ヲ認メズ且ツ各部トモ他ノ選士ヲ兼スルコトヲ得ズ

十一 中央大會ハ東京市ニ於テ開催スルヲ原則トス

道、府、縣代表ハ各部トモ三名ヲ以テ一組トシ抽籤ニ依リ組合セテ作成スルモノトス

十二 選士ニ對シテハ往復ノ旅費及ビ宿泊料ヲ支給ス

十三 選士ハ大會指定ノ宿舍ニ宿泊スルコトヲ要ス

十四 選士ノ服装ハ制服又ハ之ニ準ズベキモノタルヲ要ス

十五 中央大會ノ役員左ノ如シ

- 一 名譽總裁又ハ總裁
- 一 顧問
- 一 參 與
- 一 會 長
- 一 副 會 長
- 一 總務委員長
- 一 總 務
- 一 幹 事

十六 大會期日

昭和十五年十一月五日(火曜日)及ビ六日(水曜日)ノ二日間トス

五日ハ訓練日トシ左記ノ行事ヲ爲ス

六日ハ仕合ヲ開催ス

會 場 東京市牛込區戸山町 陸軍戸山學校

申込期日 豫選期限ハ十月五日マデトシ、大會出場申込ハ申込用紙ニ所要ノ事項ヲ記入シ十月十五日マデニ左記大日本清風會事務所宛申込ノコト

主 催 大 日 本 清 風 會

擔 任 講 道 館(柔道)

陸軍戸山學校(銃劍術)

全日本學生聯盟(劍道)

大日本清風會(相撲)

後 援 陸軍省 海軍省 文部省
厚生省 精動本部
各新聞社

申込所 大日本清風會事務所

東京市四谷區内藤町一番地一八號
電話四谷(35) 一二九〇

第一五五號

保存期限
 決裁指定
 局長委任
 決行指定

大臣 委		局長 主務		番號 新審第一七八號	
次官 委		局長 主務		昭和三十五年九月二十日	
高級副官		局長 主務		昭和三十五年九月二十日	
主務副官		局長 主務		昭和三十五年九月二十日	
書記官		局長 主務		昭和三十五年九月二十日	
審案 筆記者		局長 主務		昭和三十五年九月二十日	

受領番號
 第四五六三號
 起元廳(課)名
 東京日々新聞社
 件名
 體操創案二關スル件

政務大官
 參與官回付
 拾年保
 決裁前後一連帶
 課名
 兵務
 恩賞

決行(決裁)後
 回覽課名

軍務
 和地
 15.9.20
 第 號
 課 賞 恩

副官ヨリ教育總監部庶務課長へ照會

陸 年

首題ノ件別紙ノ通り東京日日新聞社ヨ

リ願出アリ當省トシテ指導シアルモノニ付便

宜供與相成度照會ス

陸普第六五六號 昭和十五年九月廿一日



陸軍省 第四五八三



体操創案之件願

昭和十五年九月十六日

東京日日新聞社

陸軍省 副官 殿

今般軍事保護院、陸軍省、海軍省撰定、本社募集國民進軍歌歌曲ニ對シ体操ヲ形付ケ全國ノ青少年ニ普及ヲ圖リ以テ身心ノ鍛練ニ資セント希望致スモノニ有之候、就而陸軍戶山學校ニ於テ本体操ノ創案方相願度此段及御願出候

追而右創案方御許可ノ上ハ研究資材ハ戶山學校擔任官ニ直接御打合セ仕度

本社擔任者

事業部長 瀨口 正央

(電話丸の内三三二一)

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流于丙戌因疔受者ヲ余キ入完丙疔者ニ限ル)

陸軍省 第四八三三

教庶第三〇九七號

体操創案ニ關スル件回答

昭和十五年九月二十六日

教育總監部庶務課長 今井一二

陸軍省副官 川原直一 殿

九月二十一日附陸普第六五六號ヲ以テ照會ニ係ル首題ノ件差支無之學校ニハ其ノ旨取計ヒ置キタルニ付通牒ス



陸軍



壹 4083

陸 普 副官ヨリ日産自動車販賣株式會社專務取締役

へ通牒

乙月三日付頭長ニ系レ乙月十二日、同月十三日、同
日産自動車株式會社

横濱市神奈川區室町二

社參觀ハ願出ノ
相成度

陸 普 第六二七六號 昭和五年九月七日

陸 普 副官ヨリ兵器本部總務部長並日産自動車株式會

社取締役社長へ通牒

日産自動車販賣株式會社專務取締役ヨリ首題ノ件ニ
關シ願出有之タル 據 別紙ノ通許可セラレタ
ルニ付承知相成度

陸軍

追テ時局柄秘密保持ニ関シテハ特ニ留意セヨ
レ度急念申添フ

陸普第六二七六號

昭和五年九月七日



別 紙

一、參觀工場名

日産自動車株式會社横濱工場

一、參觀月日及參觀者

九月十二日午後一時ヨリ約三時間
同和自動車工業株式會社東京事務所勤務

九月十三日午後一時ヨリ約三時間
同和自動車工業株式會社東京事務所勤務

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
右 右 右 右 右 右 右 右 右 右 右

島	範	清	川	堀	岡	田	中	宮	直	青	東	佐	成
崎	水	上	口	野	口	屋	島	井	木	藤	毛		
秀	八	明	喜		覺	甚	門	剛	光	一	吉		
勇	人	武	郎	治	次	利	之	次	夫	三	彦	之	勉

陸 軍

同 右
九月十七日午後一時ヨリ約三時間

同和自動車工業株式會社東京事務所勤務

同 右

同 右

同 右

同 右

同 右

一、參觀範圍
參觀規程第三類

大久保龜次郎

間塚山 清水部 阿部 關口 田中
清敏 秀敬 俊喜
清駿 敏夫 三夫 一次

8 其 實 則 補 (實 行 規 程 第 三 類)
9 協 理 補 (協 理 補 長 兼 務 者 補 入 調 査 表 第 三 類)
10 口 辭 料 本 一 紙 (本 人 派 遣 事 務 所 備 用 紙 二 張)

一、本 冊 二 冊 共 一 冊 手 書 簿

陸軍省 第四三三三



日産自動車株式会社工場見學許可願

一、氏名

同和自動車工業株式会社東京事務所勤務

全	全	全	全	全	全	全
右	右	右	右	右	右	右
大久保 龜次郎	島崎 勇	薄 秀人	清水 武	川上 八十一郎	堀口 明治	岡野 喜代次

計 七名

一、目的 國産自動車製造狀況見學ノ爲

一、日時 九月十三日自午后一時至全三時

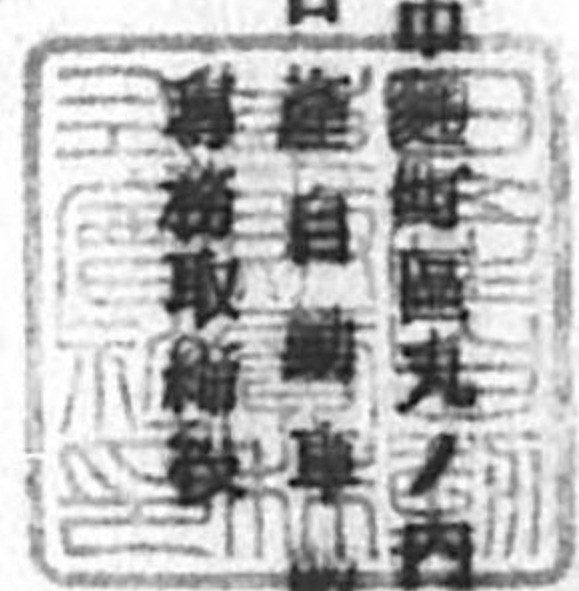
右見學ノ儀御許可被賜度此段及御願候也

昭和十五年九月三日



陸軍大臣 東城英機殿

東京市 麹町區丸の内貳丁目拾八番地



日産自動車株式會社
事務取締役 朝倉 每人



Handwritten mark or signature.

陸軍省
第四三二四



日產自動車株式會社工場見學許可願

一氏名

同和自動車工業株式會社東京事務所勤務

全	全	全	全	全	全
右	右	右	右	右	右

田	關	阿	清	米	塚	間
計	中	口	部	水	浦	本
	喜	俊	敬	秀		
	一	次	三	夫	敏	駿
						清

計七名

一目的 國產自動車製造狀況見學ノ爲

一日時 九月十七日自午后一時至全三時

右見學ノ儀御許可被賜度此段及御願候也

昭和十五年九月三日



陸軍大臣 東城英機 殿

東京市丸の内區丁目拾八番地
日產自產株式會社
專務取締役 朝倉 每人



四三五



日產自動車株式會社工場見學許可願

一、氏名

同和自動車工業株式會社東京事務所勤務

全 全 全 全 全 全 全

右 右 右 右 右 右 右

成 佐 東 青 直 宮 中 田

藤 木 井 島 屋 口 計

毛

吉 一 光 利 門 甚 覺 八名

勉 之 彦 三 夫 次 之 利

一、目的 國產自動車製造狀況見學ノ爲
二、日時 九月十二日自午后一時至三時
右見學ノ儀御許可被賜度此段及御願候也

昭和十五年九月三日

陸軍大臣 東城英機 殿

東京市墨田區丸ノ内貳丁目拾八番地

日産自動車株式會社

專務取締役 朝倉 每人



一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戶籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

指定官經由

兵器本部經由

昭和十五年九月二十三日



書 〇三三三

陸軍大臣 東條英機 殿



正 輔



同和自動車工業株式會社東京事務所員弊社工場見學ニ關スル件報告

昭和十五年九月七日附陸普第六二七六號ヲ以テ御許可相成候首題ノ件左記ノ通り及御報告候也

記

一、參觀者氏名

第一班	同和自動車工業株式會社東京事務所員	成毛 勉	外七名
第二班	"	岡野 喜代次	外六名
第三班	"	間山 清	外六名

氏名別紙ノ通り



1

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

横浜市神奈川區寶町二番地

日産自動車株式會社

電話神奈川(代表) 二九三二(五) 二九三三(五) 二九三二(五) 二九三三(五)

二、參觀日時

第一班 昭和十五年九月十二日自午後一時至午後三時

第二班 昭和十五年九月十三日自午後一時至午後三時

第三班 昭和十五年九月十七日自午後一時至午後三時

三、參觀工場名 車體工場、塗裝工場、工具工場、プレス工場、鍛冶工場、熱處理工場

機關第一工場、車軸第一工場、齒車工場、部品第二工場、部品第一工

場、組立工場

四、參觀目的 國產自動車製造狀況認識ノタメ

五、工場案内

一、車體工場

此處ハ車體工場デ車體ノ熔接カラ艱裝マデシテ居リマス

熔接並ニ艱裝^業作見學

尙ボデーガ出來上リマスト組立ラインニテシヤシーニ架裝

致シマス

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死没者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

日産自動車株式会社

電話神奈川④代表(一九三二)二五三二(四)
(二六三二)二五三二(五)
(二九三二)二五三二(五)

2. 塗装工場

此處ハ熔接組立ヲ終ヘマシタボデーニ錆止メ塗装カラ仕上
ゲ塗マデヲシマス、乾燥ハオイルバーナーニ依リ人工乾燥
ヲシテキマス

3. 工具工場

此處ハ工具工場デス、鍛冶工場、プレス工場等デ使ヒマス
臺ノ製作ヲシテ居マス、ケラーマシンニ依ル型刻作業見學
々プレス工場

此處ハプレス工場デス、工具工場デ製作サレタプレス臺ハ
此ノ様ニ機械ニ取付ケテ鐵板ヲ種々ノ型ニプレスシテ居リ
マス

各種プレス作業見學

5. 鍛冶工場

此處ハ鍛冶工場デス、素材カラ鍛造ニヨツテ部品素材ヲ造
ツテ居マス

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

日産自動車株式會社

電話神奈川④代表 二九三二(五) 二九三三(五)
二六三二(五) 二九三一(五)

問「クラシクシャフトハ此處デ造ラレマスカ」

答「此ノ次ノマシンデ鍛造致シマス」

コンネクティングロッド、カムシャフト、フロントアクス等ノフォーヂング作業見學

問「此ノハンマトハ何噸デスカ」

答「一萬ポンドデスカラ約四噸半位デス」

6. 熱處理工場

此處ハ熱處理工場デス、各種部分品ノ焼入レ焼戻シヲシテ居マス

問「爐ハ何ヲ使ツテ居マスカ」

答「大部分電氣デスが重油モ液體爐モアリマス」

7. 機關第一、車軸第一、齒車、部品第二、部品第一工場

此ノ廣イ所ガ部分品ノ製作ヲシテ居マス部品工場デス
御覽ノ様ニ順序正シク各種作業ガナサレテ居マス

クラシクシャフト 旋削仕上ゲ作業、ギヤーホッピング、ギヤーカツチ

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

日産自動車株式會社

電話神奈川④代表(一九三二)五二五三一(四)
(二六三二)五二九三二(五)

ング等見學

ボルト製作狀況見學

8. 組立工場

此處ハ組立工場デス、此處デフレームヲ組立テマス、組立ラレタ車枠ハ此方ノコンベヤーラインノ上ニ乗セルト順次送ラレ乍ラ種々ノ部分品ガ取付ケ又ハ架裝サレテ向フ端ヘ行ク内ニ車トシテ完成致シマス

エンジントカフレーム、アクセスル、ラヂエーターハ此ノ様ニライン横ニアリマスサブアツセンブリーラインデ各々ノ組立ヲサレテ居リマス

出來上リマシタ車ハ此處デ水トガソリンヲ注入シテ自力ニテテストコースニ行ツテ検査ヲサレマス

問「一日何臺位出來マスカ」

答「生産臺數ハ申上ゲラレナイコトニナツテ居リマス」
以上ヲ以テ工場案内ヲ了リ小懇ノ後辭去

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

日産自動車株式会社

電話 神奈川④代表 (一) 九三二 (二) 二五三一 (三) 二六三一 (四) 二九三二 (五) 二九三三 (五)

六、接待並ニ案内者

庶務部庶務課庶務係員

小野 慶三郎
犬伏 政信

以上

一、本紙ニ添附スヘキ書類

1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
2. 病歴書 (流行病基因死役者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

日産自動車株式會社

電話 神奈川 〇代表 二九三二五 二九三二六 二九三二七 二九三二八 二九三二九

別紙

同和自動車工業株式會社東京事務所員
工場見學者名簿

第一班

成	佐	東	青	直	宮	中	田	岡	堀
毛	藤		木	井	島	屋	口	野	口
吉	一	光	利	門	甚	覺	計	喜	明
勉	彦	三	夫	次	之	利	八	代	治

第二班

一、本紙ニ添附スヘキ書類

- 1. 戸籍抄本一通 (本人死亡事項ノ記載シアルモノニ限ル)
- 2. 病歴書 (流行病基因死歿者ヲ除キ入院病死者ニ限ル)

日産自動車株式会社

電話神奈川④代表 (一九三一) 二五二二 二五二一 二五二〇 二五一九 二五一八 二五一七 二五一六 二五一五 二五一四 二五一三 二五一二 二五一一 二五一〇 二五〇九 二五〇八 二五〇七 二五〇六 二五〇五 二五〇四 二五〇三 二五〇二 二五〇一 二五〇〇

第三班

川	清	薄	島	大	間	塚	米	清	阿	關	田
上	水		崎	久	山	本	浦	水	部	口	中
八十一郎	武	秀	勇	龜次郎	清	駿	敏	夫	三	次	一
				計七名							
											計七名
											計七名
											以上
											二十二名

保存期限

三年

決裁指定

局長
委任

決行指定

第一七〇號

政務次官
參與官
決裁
後
連帶
主、醫

受番
件名
追加並更正豫算ニ關スル件

尾崎四七一九号

起元藥(課)名

日本赤十字社

決行(決裁)後
回覽
課名

大臣
委

次官
委

局長
主務

課長
主務

主務課員

高級
副官

主務副官
官房御用掛

政務
次官

參與官

書記官

筆記者
案

大臣官房	局長	主務局長	主務課長	主務課員
了結	領受	出提	領受	號番
昭和 年	昭和 年	昭和 年	昭和 年	第一七〇號
十月五日	三月五日			

決行後 回覽	決行後 回覽	連帶
局長	局長	

局長	局長
----	----

長課	長課
----	----

井
浦

局長

課長

主務課員

次官

高級副官

主務副官

政務次官

參與官

書記官

筆記者

陸軍

陸普案

陸軍大臣ヨリ海軍大臣へ通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通申請アリタルニ付認可致度異存無之トキハ別紙ニ捺印ノ上交付相成度

(別紙指令案)

陸普第七〇五〇號 昭和五年十月三日

同件

陸、海軍大臣ヨリ日本赤十字社社長へ指令
九月二十七日經主第一七一號申請ノ通認可ス

陸普第七〇五一號 昭和五年十月三日





陸軍大臣 東條英機殿
海軍大臣 及川古志郎殿

經主第一七一號

昭和十五年九月廿七日

日本赤十字社社長公爵 德川 圀 順



追加並更正豫算ニ關スル件

昭和十五年九月中ニ於ケル追加並更正豫算常議會ノ議決ヲ經候ニ付
提出候條御認可相成度申請候也



日本赤十字社

昭和十五年九月二十日常務會議決議

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算追加ノ件

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ參千八百參拾六圓ト定ム
其ノ款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入 金參百四圓

第三項 寄附金 金參百四圓

第二款 支部收入 金參千五百參拾貳圓

第一項 交付金 金貳千七百參拾六圓

第四項 雜收入 金七百九拾六圓

合計金參千八百參拾六圓

歳出經常部

第一款 本部費 金參百四圓

第二項 資金移積 金參百四圓

第二款 支部費 金參千五百參拾貳圓

第一項	事務費	金四百九圓
第三項	保健費	金七百六拾五圓
第四項	軍事後護費	金千參百圓
第五項	少年赤十字費	金八百拾四圓
第七項	社員費	金貳百四拾四圓

合計金參千八百參拾六圓 ✓

以上追加ニ伴フ基金部豫算ハ別紙明細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十五年九月

社長公爵 徳川 圀 順

理由

茨城支部ニ於テ職員ニ對シ臨時家族手當ノ支給夏季兒童保養所給費ノ不足
 及管内出征軍人戦没者弔祭費ノ支出多キト少年赤十字團増設ニ伴ヒ諸費
 フ要スルヲ以テ指定寄附金及雑收入ノ增收ヲ財源トシ右增收ニ伴フ社員費ノ増
 費ト併セ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十五年常用部歳入歳出豫算追加明細書

歳入經常部

科	目	追加豫算額	備考
一 本部收入	三 寄附金	✓ 三〇四 三〇四	本部收入額
二 支部收入	一 交付金	✓ 三、五三二 二、七三六	增收見込額三〇四円、新計上
	三 指定寄附金	二、七三六	
四 雑收入	二 預金利子收入	七九六	增收額
	五 雑收	三 七六五	
	合計	✓ 三、八三六	

歲出經常部

款	項	目	目	追加預算額	備考
一 本部費	一 資金移積	一 資金移積	三 常備資金 移積	304	
二 支部費	一 事務費	一 給與	一 俸給	409	
			五 報酬	192	職員臨時家族手当
	三 保健費	二 兒健費	八 諸備給	72	
				145	同其他
				765	
				765	
				353	
				409	
				304	
				304	
				304	

昭和十五年度基金部歳入歳出豫算追加明細書

歳入

款	項	目	追加豫算額	備考
三 常備資金收入	三 移積金及雑入	一 移積金	304	
合計			304	

歳出

款	項	目	追加豫算額	備考
三 常備資金支出	二 翌年度繰越金	一 翌年度繰越金	304	
合計			304	

常用部豫算追加に伴い本豫算に追加

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算追加ノ件

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ七萬貳千七百圓卜定ム
其ノ款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入 金七千圓

第三項 寄附金 金七千圓

第二款 支部收入 金六萬五千七百圓

第一項 交付金 金六萬參千圓

第四項 雜收入 金貳千七百圓

合計金七萬貳千七百圓

歳出經常部

第一款 本部費 金七千圓

第一二項 資金移積 金七千圓

第二款 支部費 金六萬五千七百圓

第一項	事務費	金六千八百圓
第二項	救護費	金貳千四百貳拾貳圓
第三項	保健費	金壹萬千百拾七圓
第六項	宣傳費	金六千九百九拾五圓
第七項	社員費	金壹萬五千七百壹圓
第三項	資金移積	金貳萬參千參百五拾七圓

合計金七萬貳千七百圓✓

以上追加二件ノ基金部豫算ハ別紙用細書ニ據リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十五年九月

社長公辭 德川 函 順

理 由

愛知支部ニ於テ職員ニ對シ臨時手當ノ支給、退職死亡給與金豫算不
足等、爲事務費ニ増費ヲ要スルト戰時救護材料ノ購入整備ヲナシ
又夏季見童保養所一ヶ所増設ヲ要シ尚宣傳費及社員費ニ於テモ相
當ノ經費ヲ要スルヲ以テ指定寄附金並ニ雜收入ノ増收ヲ財源トシ剩餘資
金移積ト併セ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

歳出經常部

科目	項目	目録	追加豫算額	備考
一 本部費	一 資金移積	一 資金移積	7,000	
		二 常備資金移積	7,000	
一 支部費	一 事務費	一 俸給	6,108	臨時特別手当 家族手当 1,012円 2,640円
		二 給與	6,108	
二 收穫費		三 退職死與	3,219	
		四 有給職員慰勞金	1,265	特別臨時手当 臨時家族手当 1,404円 慰勞金 1,844円
		八 諸備給	348	
		六 諸備給	2,422	
			7,000 <small>円</small>	

六 倉庫費		三 保健費		二 救護材料費	
一 倉庫費	四 診察費	二 兒童保健費	一 陸海防費	三 災害救護費	一 材料費
六、九九五	一、三七二	八、三四三	一、四〇二	四、二二	二、〇〇〇
六、九九五	一、三七二	七、八三九	一、四〇二	二、一一七	二、〇〇〇
六、九九五	一、三七二	五、〇四	一、四〇二	四、二二	二、〇〇〇
六、九九五	一、三七二	五、〇四	一、四〇二	四、二二	二、〇〇〇

一宮診察所諸給與
四四八五円
四二九円

三倉兒童保健所
校舍使用料其他雜費

家族手當其他

臨時運轉手當給
一ヶ月入の円五分分
手當其他
一八二円

諸給與
一、六〇四円
食費
三、二七円
備用費
三、〇〇八円

合計	七社員費		二資金移積			
	一募集費		一資金移積			
	二獎勵費		二分區費		一支部收據準備 資金移積	
	一委員部費		二分區費			
	二獎勵費		一委員部費			
	一諸給與	二需用費	一募集費	二獎勵費	一委員部費	二分區費
	六〇〇	六、三九五	七、三〇一	一一	二、八〇〇	五、六〇〇
			七、二八〇	八、四〇〇	二、八〇〇	二、三三五七
						二、三三五七
						二、三三五七
						二、三三五七
						七、二七〇〇
	旅費 雜給	印刷費其他 映寫會場設備費 二〇〇ヶ所 會場借上設備費 運搬費 講印謝禮其他雜費	勸誘諸費 交付金	門標調製費	交付金	交付金
	三〇〇円 三〇〇円	一、五九五円 一、七五〇円 三、〇〇〇円	六、三三〇円 一、〇五〇円			

昭和十五年度基金部歳入歳出豫算追加明細書

歳入

科	目	追加豫算額		備考
		歳入	歳出	
三 常 備 資 金 入	一 移 積 金	7,000	7,000	
	二 移 積 金 及 雑 入	7,000	7,000	
八 支 部 救 護 半 備 資 金 收 入	一 移 積 金	23,357	23,357	
	四 移 積 金 及 雑 入	23,357	23,357	
合 計		30,357	30,357	

歳出

科目	款		項		目		追加豫算額	備考
	款	項	目	目	目	目		
三 常備資金支出		二 翌年度繰越金		二 翌年度繰越金		七、〇〇〇	七、〇〇〇円	
		三 翌年度繰越金		一 翌年度繰越金		二、三、三五七		
八 支那波蔵準備資金支出						七、〇〇〇	七、〇〇〇	
						二、三、三五七		
合 計						二、三、三五七	二、三、三五七	
						三〇、三五七		

常用部豫算追加ニ伴ヒ本豫算ヲ追加ス

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算追加ノ件

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ拾五萬圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入 金壹萬五千圓

第三項 寄附金 金壹萬五千圓

第二款 支部收入 金拾參萬五千圓

第一項 交付金 金拾參萬五千圓

合計金拾五萬圓

歳出經常部

第一款 本部費 金壹萬五千圓

第一二項 資金移積 金壹萬五千圓

第二款 支部費 金拾參萬五千圓

第一項 事務費 金十七拾五圓

第七項	社員費	金貳萬四千百圓
第一二項	資金融積	金拾萬九千八百貳拾五圓
合計		金拾五萬圓

以上追加ニ伴フ基金部豫算ハ別紙明細書ニ依リ整理ス
右常議會ニ提出ス

昭和十五年九月

社長 公爵 徳川 圀 順

理由

岡山支部ニ於テ職員ニ對シ臨時手當ノ支給並ニ寄附金増募等ノ爲事務費及社員費ニ増費ヲ要スルヲ以テ指定寄附金ノ增收ヲ源泉トシ剩餘資金融積ト併セ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十五年年度常用部歳入歳出豫算追加明細書

歳入經常部

款	科	項	目	追加算額	備	考
一	本部收入	三	寄附金	一五、〇〇〇円		
二	支部收入	一	交付金	一五、〇〇〇	本部收入額	
三	指定制寄附金	三	指定制寄附金	一三五、〇〇〇		
合	計			一五〇、〇〇〇	増収見込額一五〇、〇〇〇円、八割計上	

歳出經常部

款	科	項	目	追加算額	備	考
一	本部費			一五、〇〇〇円		
三	資金移積			一五、〇〇〇		

二支部費		一事務費		七社員費		一給與		一資金積積	
二委員部及分區費		一募集及獎勵金		一募集費		一俸給		三帶備資金積	
二分區費	一委員部費	二獎勵費	一募集費	一募集費	八諸俸給	一俸給	三帶備資金積	一資金積積	一資金積積
一三〇〇〇	二〇〇〇	四五〇〇	四六〇〇	九一〇〇	二四一〇〇	九七六	一〇七五	一〇〇五	一五〇〇〇
交付金	交付金	交付金	募集諸費			臨時手當 家族手當	臨時手當 家族手當		
						八四四円 一三二円 六三円 三六円			

昭和十五年年度基金部歳入歳出豫算追加明細書

歳入

款	項	目	追算額	備考
三 常備資金收入	三 移積金及雜入	一 移積金	一五,〇〇〇円	
八 支部救護準備資金收入	四 積積金及雜入		一〇〇,〇〇〇	
			一五,〇〇〇	
			一〇〇,〇〇〇	
			一〇〇,〇〇〇	

合計	三 資金移積	一〇九,八二五円
	一 資金移積	一〇九,八二五
	一 支部救護準備資金移積	一〇〇,〇〇〇
	二 支部常備資金移積	九,八二五
		一五〇,〇〇〇

科目		項目		目		備考
九 支部常備 資金收入	四 移積金及推入	一 移積金	一〇〇,〇〇〇	九 支部常備 資金支出	三 常備資金支出	
一 移積金	一〇〇,〇〇〇	二 移積金	一五,〇〇〇	八 支部救護 備資金支出	二 型年度繰越金	
二 移積金	九,八二五	三 移積金	一〇〇,〇〇〇	三 型年度繰越金	一 型年度繰越金	
三 移積金	九,八二五	四 移積金	一〇〇,〇〇〇	一 型年度繰越金	二 型年度繰越金	
四 移積金	九,八二五	五 移積金	一〇〇,〇〇〇	二 型年度繰越金	三 型年度繰越金	
合計	三〇四,八二五	六 移積金	一〇〇,〇〇〇	三 型年度繰越金	九 支部常備 資金支出	
		七 移積金	一〇〇,〇〇〇	合計		
		八 移積金	一〇〇,〇〇〇			
		九 移積金	一〇〇,〇〇〇			
		合計	三〇四,八二五			

合 計

三翌年度繰越金

一翌年度繰越金

九、八二五

九、八二五

三、四八二五

常用部豫算追加ニ伴ヒ本豫算ヲ追加ス

昭和十五年年度常用部歳入歳出豫算追加件

昭和十五年年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ壹萬九千八百圓卜定ム其ノ
款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入

金貳千九百六拾圓

第一項 年賦金

金千九百六拾圓

第三項 寄附金

金千圓

第二款 支部收入

金壹萬六千八百四拾圓

第一項 交付金

金壹萬六千八百四拾圓

合計金壹萬九千八百圓

歳出經常部

第一款 本部費

金貳千九百六拾圓

第一二項 資金移積

金貳千九百六拾圓

第二款 支部費

金壹萬六千八百四拾圓

- 第一項 事務費 金八百參拾六圓
- 第二項 救護費 金五千七百四拾參圓
- 第四項 軍事援護費 金參十九百參拾壹圓
- 第七項 社員費 金六千參百拾拾圓

合計金壹萬九千八百圓

以上追加に伴つ基金部豫算ハ別紙詳細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十五年九月

社長公爵 徳川 圀 順

理由

熊本支部ニ於テ書記壹名増員及臨時家族千當支給等ノ爲事務費ニ増費ヲ要スルト救護員養成救護材料補充整備軍事援護事業ニ於テモ相當ノ經費ヲ要シ又社員及寄附金増募ノ爲社員費ノ豫算ニ不足ヲ生スルヲ以テ年賦金指定寄附金ノ增收ヲ財源トシ豫算ヲ追加セントス畏レ本意ヲ提出スル所以ナリ

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算追加明細書
 歳入經常部

款	種	項	目	追加豫算額	備考
一 本部收入		一 年 醸 金	一 年 醸 金	一九六〇	本部收入見込額
			三 寄 附 金	一〇〇〇	
			一 交 付 金	一九八〇	
二 支部收入		一 交 付 金	三 指 定 寄 附 金	一〇〇〇	本部收入見込額
			一 年 醸 金	一六八四〇	
			三 指 定 寄 附 金	一六八四〇	
合 計		一 交 付 金	三 指 定 寄 附 金	九〇〇〇	增收見込額 10,000円 九割計上
			一 年 醸 金	七,八四〇	
			三 指 定 寄 附 金	一九八〇〇	

增收見込額 九,八〇〇円、
 八割計上
 增收見込額 10,000円、
 九割計上

四軍中救護費

一軍中救護費

二救護材料費

七社員費

一募集及獎勵費

二委員卸及分區費

一 養成費

四 鞋費

一 材料費

二 干祭料

三 備軍慰問費

四 雜費

一 募集費

二 獎勵費

二、三四三

八〇〇

二、六〇〇

二、六〇〇

三、九三一

三、九三一

二、七五〇

一、一五〇

三

六、三三〇

四、一五〇

三、三五〇

八〇〇

二、一八〇

生徒食費贈費

救護員干慰金

救護班準備用材料

殉職軍人干祭料

靖國神社寫真額(遺族へ贈呈用)

所標交付金 二五〇円
三、一〇〇円

表彰費

昭和十五年度基金部歳入歳出豫算追加明細書

歳入

款	項	目	追加豫算額	備考
一 根基金資金收入	四 移積金及雜入	一 移積金	九八〇	
二 救護準備資金收入	三 移積金及雜入	一 移積金	九八〇	
三 常備資金收入	三 移積金及雜入	一 移積金	一〇〇〇	
			九八〇円	

合計	備考
一 委員印費	四〇〇
二 分区費	一七八〇
	交付金
	一九八〇〇
	交付金

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算追加ノ件

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ六拾六萬參千五百四拾圓
卜定ム其ノ款項、金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款

本部收入

第一項

年釀金

金六萬六千參百五拾四圓

第三項

寄附金

金參萬九百參拾四圓

第二款

支部收入

金五拾九萬七千八百八拾六圓

第一項

交付金

金五拾九萬七千八百八拾六圓

總計金六拾六萬參千五百四拾圓

歳出經常部

第一款

本部費

金六萬六千參百五拾四圓

第二項

資金移積

金六萬六千參百五拾四圓

第二款

支部費

金四拾六萬千六百五拾壹圓

第一項 事務費

金貳千四百拾圓

第二項 救護費

金貳千七百拾六圓

第三項 保健費

金貳百貳拾四圓

第七項 社員費

金參拾七萬參千貳百八拾六圓

第八項 財產管理費

金五千五百圓

第一二項 資金移積

金七萬七千七百八拾五圓

合計金五拾貳萬八千五百圓 ✓

歲出臨時部

第二款 支部費

金拾參萬五千五百參拾五圓

第一項 營運費

金拾參萬五千五百參拾五圓

合計金拾參萬五千五百參拾五圓 ✓

總計金六拾六萬參千五百四拾圓 ✓

以上追加ニ伴リ基金部豫算ハ別紙明細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十五年九月

社長公爵 德川 圀 順

理由

朝鮮本部ニ於テ職員ニ對シ臨時手當ノ支給ヲナシ又物價昂騰ニ從ヒ救護員養
成費ノ豫算不足スルト紀元二千六百年記念社員大募集ニ伴ヒ募集獎勵費其
他ニ相當多額ノ經費ヲ要シ事務所ノ雨漏修繕及仁川療養所建築並ニ東大門診
療所増築工事等ニ諸費ヲ要スルヲ以テ年曠金及指定寄附金ノ增收ヲ財源トシ
剩餘資金移積ト併セ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十五年常用部歳入歳出豫算追加明細書

歳入經常部

科	目	追加豫算額		備考
		目	項	
一 本部收入	一年醸金	三〇、九三四	本部收入見込額	
	三 寄附金	三五、四二〇	本部收入見込額	
	二 支部收入	五九七、一八六	本部收入見込額	
二 支部收入	一 交付金	五九七、一八六	增收見込額三〇、九三四円、九割	
	一年醸金交付金	二七八、四〇六	增收見込額三五四、二〇〇円、九割	
	三 指定寄附金	三一八、七八〇		
總計		六六三、五四〇		

歳出經常部

科		目		追加豫算額	備考
款	項	目	節		
一本部費	三資金移積	一資金移積	一收増準備資 二金移積 三常備資 移積	六六、三五四	
				六六、三五四	
				六六、三五四	
				三〇、九三四	
				三五、四二〇	
二支部費	一事務費	一給與		四六一、六五一	
				二、一四〇	
				一、二四〇	
				一、二〇四	臨時手當 一〇三六円 家族手當 一六八円
				三六	家族手當
		二需用費		九〇〇	
				九〇〇	接待費 六〇〇円 贈答費 三〇〇円
			八交際費	九〇〇	
			八諸傭給		
			一俸給		

歳出臨時部

款	項	目	追加豫算額	備考
二支部費	一管轄費	一建築費	一三五、五三五	仁川療養所建築費 三九、七七円 東大門診療所建築費 八、〇〇〇円
		二設備費	四七、一七七	仁川療養所設備費 六四、八三〇円 東大門診療所設備費 二、六四円
		三土地買入費	六五、〇四六	仁川療養所土地買入費 二〇、七八六円
		四雜費	二〇、七八六	仁川療養所雜費 二〇、二六円 東大門診療所雜費 五、〇〇円
合計		六六三、五四〇		

昭和十五年度基金部歳入歳出豫算追加册細書

歳入

款	項	目	追加豫算額	備考
二救護準備資金			三〇、九三四	
合計			三〇、九三四	

合 計

常用部豫算追加ニ伴ヒ本豫算ヲ追加ス

一四四、一三九

昭和十五年度常用部歳入歳出豫算追加，件
 昭和十五年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ千五百五拾六圓ト定ム其ノ
 款項，金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入 金百五拾六圓

第三款 寄附金 金百五拾六圓

第二款 支部收入 金千四百圓

第一項 交付金 金千四百圓

合計金千五百五拾六圓

歳出經常部

第一款 本部費 金百五拾六圓

第一二項 資金移積 金百五拾六圓

第二款 支部費 金千四百圓

第一項 事務費 金八百九拾貳圓

第二項 救護費

金五百八圓

合計金千五百五十六圓

以上追加に伴フ基金部豫算ハ別紙明細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十五年九月

社長公爵 徳川 順

理由

奈良支部ニ於テ職員退職ニヨリ退職死亡給與金ノ豫算ニ不足ヲ生ズルト
筆紙墨文具費及災害救護費等ニ増費ヲ要スルモノアルヲ以テ指定寄附金
ノ增收ヲ財源トシ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十五年常用部歳入歳出豫算追加明細書

歳入經常部

科	項	目	追加豫算額	備考
一本部收入	三寄附金	二指定寄附金	一五六	本部收入見込額
二支部收入	一交付金	三指定寄附金	一四〇〇	
合計			一五五六	增收見込一五五六円ノ九割計上

歳出經常部

科	項	目	追加豫算額	備考
一本部費	三資金移積	一資金移積	一五六	
			一五六	
			一五六	